

例) 中学校 特別の教科 道徳

主題名 自分の弱さを克服する

教材名 「二人の弟子」 出典「私たちの道徳」中学校(文部科学省)

【よりよく生きる喜び】中学校 D (22)

あらすじ

上人の下、仏門で修行する二人の若者。道心は意志の弱さから修行を投げ出し、人生の苦しみの中で自分の愚かさに悲観する。智行は厳しい修行に耐え抜いて立派な僧侶に成長したが、上人に許されて仏門に舞い戻ってきた道心を許せず、智行は自分の醜さに苦悩する。

本時のねらい(例)

自分の弱さや醜さに向き合い、それらを克服しようとする強さや気高さに気付くことで、人間としての生きる喜びを見いだそうとする心情を育てる。

I つかむ (課題を把握し、見通しをもつ)



人間のもつ強さとは何だと思えますか？反対に、弱さとは何だと思えますか。

自分だったら、〇〇が強さで、△△が弱さになるかな。

今まで強さや弱さについて考えたことがなかったな。

教師の関わり ポイント③

この教師は、生徒が感じる人間の強さや弱さについて自由に話し合わせることで、本時で扱う道徳的価値への方向付けをしています。(生徒からの事前アンケートを提示する方法も考えられます)



II 深める (追究し、解決する)

教材を読んで話し合う



道心が上人に許されたのを見て、智行はどんな気持ちになったのでしょうか。

修行を投げ出した道心を許すなんて信じられない。

自分は厳しい修行に耐えた。だから、絶対に許せない。

今まで頑張った意味はいったい何だったんだ。

智行は、許せない気持ちが強いんですね。智行の気持ちがどの位、自分の中にあるか「心情円」で表してみましょう。



「心情円」を見ると、それぞれ感じ方が違うようですね。グループになってそれぞれの理由を聞いて、自分の考えと比べてみましょう。

自分は考えなかったことを〇〇さんはもっているんだな。

教師の関わり ポイント⑥

この教師は、心情円などの思考ツールを用いて、それぞれの子供に違う感じ方があることに気付かせるようにしています。そして、「違いを比べる」という明確な意図を子供達に伝え、グループでの話し合いに必要感と目的意識をもたせています。



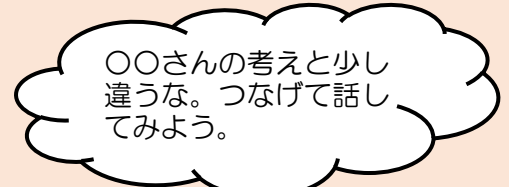
Ⅱ 深める（追究し、解決する）



グループで話し合っ、新たに感じたり、考えが生まれたりしたことを教えてください。

〇〇さんの発言につなげられる人はいますか？

△△さんの考えが自分の中にもありますか？



教師の関わり ポイント⑤

この教師は、全体で話し合う場面で「発言する内容の視点」と「友達の発言を聞く視点」を子供達に与えています。

〇〇さん、前に来て、みんなに話してみてください。



教師の関わり ポイント⑥

この教師は、発言する子供を前に移動させたり、友達の方に向けて発言させたりしています。また、子供の発言内容をすぐに板書するのではなく、最後にまとめて板書し、子供達に再生させるようにしています。

今の話し合いでは、どんなことが出ましたか？

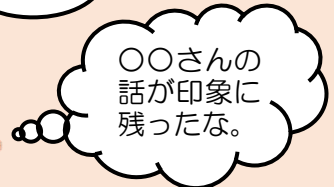
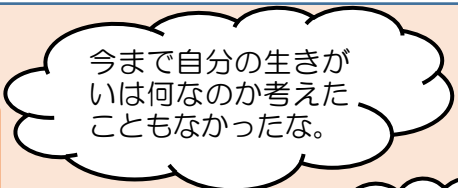


Ⅲ まとめる・振り返る



智行は、「だめな自分になりたくない」、「生きがいを感じたい」と思ったのですね。

みんなは、今日の学習で生き方について見つめてきました。生き方について考えたことは何ですか？自分と向き合ってみましょう。



教師の関わり ポイント⑦⑧

この教師は、「これからどう生きるか」について聞いていません。「これから」という視点で考える時、子供は今の自分を見つめず、一般的によいと言われていることを考えてしまうためです。「自己を見つめていくための、教師の問いかけ」は何かを考え、子供達に投げかけています。



この授業では、子供が教材を自分事として捉えていくために発問を工夫し、自分の考えをもたせるようにしています。また、思考ツールを用いることで、自分の立場を明確にさせ、友達との相違点を比べることをグループや全体で話し合う視点とし、話し合う必要感や目的意識をもたせています。

話し合いが停滞しているような時は、「先生は～と思うんだけど、みんなはどう？」など、教師と子供が対等の立場で話し合う場面もつくってみましょう。